

平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	131015	学校法人名	慶應義塾			
大学名	慶應義塾大学					
事業名	地球社会の持続性を高める研究大学としてのブランド確立					
申請タイプ	タイプB	支援期間	3年	収容定員	34,240人	
参画組織	文学部、経済学部、法学部、商学部、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、医学研究科、理工学研究科、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、薬学研究科、経営管理研究科、システムデザイン・マネジメント研究科、メディアデザイン研究科、法務研究科					
審査希望分野	人文・社会系	○	理工・情報系	○	生物・医歯系	○
事業概要	世界的な研究教育のグローバル化の潮流の中で、日本の近代化を先導してきた学塾としての慶應義塾を、地球社会の持続性を高めるグローバルな研究で世界を先導する研究大学へと脱皮させる。そのため、慶應義塾の核となる研究分野のプロジェクトの形成を目指した(1)長寿、(2)安全、(3)創造の三つの分野（クラスター）の研究を中心に据え、研究支援資源を集中的に投入し、グローバルブランドとしての慶應義塾のプレゼンスを高めていく。					

イメージ図

地球社会の持続性を高める 研究大学としてのブランド確立

研究成果の世界への発信・評価
(シンポジウム・WEB・遠隔対応)強化

慶應義塾グローバル化推進事業

グローバルリサーチインスティテュート (KGRI) 新設*

*方針決定済み、規程等整備中

- SG補助金事業対象外となっている研究面の支援を強化
- SG3クラスター(長寿、安全、創造)の研究支援強化
- 海外有力研究者のKGRI招へいと活動の場整備(ブランディング事業)
- 国際共同研究インフラ整備(ブランディング事業)
- 海外有望若手のKGRIフェローとしての招へい(ブランディング事業)
- 国際的研究成果の発信大幅強化
- 国際的研究支援事務体制の整備

学長をスーパーグローバル事業本部長とし、関連4常任理事で構成するSG本部の管轄下において強力推進

文部科学省スーパーグローバル創成支援事業

補助金による取り組み

海外副指導教授
外国人テニュアトラック
大学院ダブルデグリー創設
学部英語科目大量設置
学部横断クラスター形成

自主財源取り組み
(研究資金など補助金対象外
事業中心)

クラスター研究費
海外受入/送出奨学制度拡張
混住型留学生寮大幅拡大

連 携

—企画部門—
・塾長室

—国際部門—
・国際連携推進室
・国際センター

—研究支援部門—
・研究連携推進本部
・学術研究支援部

2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的

慶應義塾大学は、世界の研究教育のグローバル化の潮流の中で、これまで日本の近代化を先導してきた学塾から、地球規模の課題解決のための研究を先導する研究大学へと脱皮させる。既に開始しているスーパーグローバル大学創成事業（SG事業）の取り組みに加え、私立大学研究ブランディング事業（本ブランディング事業）の取り組みを行うことで国際化事業全体を加速させ、海外におけるプレゼンスを一層高める。この目的達成のために、学長直轄の新しい全学的な研究組織「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート：Keio University Global Research Institute (KGRI)」を設立し、国際的研究人材の獲得、国際共同研究支援など実施する体制を整える。そして、地球の持続性を高めるために本学が特に貢献できると考えている、(1)長寿、(2)安全、(3)創造の三つの研究分野（クラスター）に学内のリソースを集中投入する。

本ブランディング事業はSG事業とは厳格に切り分けをしながら、密接に連動させて行う。慶應義塾大学は既にSG事業タイプAの大学として、さまざまな国際的な研究・教育活動を開始している。特にSG事業補助金では支出できない研究活動については、補助金を上回る自己資金を合わせるなどして、総合的な取り組み（以下「拡大SG事業」と記す）として推進している。そして、本ブランディング事業において、現在予算的な制約等により取り組みが遅れている、海外研究者招へい、物理的な研究環境（特に海外研究機関との遠隔共同研究用施設）の整備、研究成果のデジタル発信体制（ハード・ソフト）の整備などを加速させ、本学の研究活動におけるグローバルブランドとしての国際的プレゼンスを大幅に向上させることができる。

（2）期待される研究成果

現在は、個々の研究としては優れた成果を上げながら、国際的な研究者の参加や、海外の研究機関との連携が不足しているために、国際的プレゼンスを得られていない研究が数多く存在している。これらの現状を打破し、慶應義塾を国際的な研究のハブとすべく優れた研究成果を顕在化し世界に発信していく。

たとえば、医学部を中心とした長寿クラスター研究では、現在、米国ワシントン大学（セントルイス）と包括提携を結び、老化現象のメカニズム解明と、それに伴う疾病予防の臨床研究を研究者のクロスアポイントメントなどを行いながら推進している。大きな実績を上げつつある一方で、事務支援や広報なども医学部組織に依存し、部局の限られた資源と組織的位置づけの中で行われているため、活動および成果発信は限定的である。そこで、これらを拡大SG事業の一環として、本部直轄組織の「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート：Keio University Global Research Institute (KGRI)」のもとに位置づけることによって、支援体制の大幅な強化がはかれる。さらには全学的な研究体制を組むことによって、長寿社会において健康寿命が延びることの社会的意義の分析など、文理融合的な学際研究が進められることとなる。研究成果の知財化なども本部組織の支援と管理のもとで機動的に行われ、社会還元が行われるようになる。

安全クラスター研究では、たとえば、近年緊迫度を増す国際関係についての国際的な研究の輪を広げることによって、世界、とりわけアジアにおける平和的な繁栄に貢献する。また、公衆衛生やサイバーセキュリティなど、学際的な取り組みを必要とする国際研究を推進することによって、生活レベルから、環境レベル、地政学レベルなどさまざまな角度からの安全研究を推進することが可能となる。

創造クラスターでは、最先端の技術開発から、経営、アート、さらには歴史的文献のデジタル化まで、創造性をキーワードとして、幅広い分野で高齢社会をより豊かに過ごすための高付加価値化の研究が進められている。これらの各プロジェクトを、創造性を地球社会の持続性につなげる大きな研究の輪の文脈におくことで、社会への貢献度の高い取り組みへと発展させることが可能となる。

本ブランディング事業ではこのKGRI全体計画の中でも、特に二つのことを行う。第一はKGRIへの研究者招へい事業の拡大である。特にクラスター研究において、中核的な役割を担ってくれる海外の研究者や、海外の優秀なポストドク学生がKGRIで慶應義塾の研究者と共同研究を推進する体制を整える。第二は国際研究基盤整備、とくにデジタル基盤の整備である。ハード・ソフトの両面でデジタル環境の整備を行い、国際的な研究の支援および成果の国際発信を行う。

これら研究の推進により、サイテーションとレピュテーションが向上し、さらなる研究のシーズとなるとともに、慶應義塾大学の国際的なプレゼンスを高めるブランド構築につながり、国際大学ランキングの向上への寄与や、それに伴う日本人学生や外国人留学生への就学意欲の向上、さらには国際的研究連携の創出などが広く研究成果として期待される。

KGRIの成果は拡大SG事業のガバナンスをつかさどる、SG事業本部正副本部長会議、および、合同運営委員会（全学部長、研究科委員長参加）に定期的に報告されチェックを受ける体制とする。学術論文の国際的雑誌への採択数や共同研究実施数など、客観的な評価指標を用い目標設定と事後点検を行いつつ、本ブランディング事業の成果もあわせて評価する。

(3) ブランディングの取組

慶應義塾大学ではSG事業採択に合わせ、大学ホームページの全面リニューアルや、研究者の国際的業績開示システム「PURE」の新ポータルサイトの世界初公開など、研究活動の発信に努めてきた。また、多岐にわたる研究内容を「長寿：Longevity」、「安全：Security」、「創造：Creativity」の三つのクラスターに集約して、「クラスター研究推進プロジェクトプログラム」として、経常費より平成27年度6千万円、平成28年度8千万円、平成29年度1億円（予定）の自主財源を投入して、世界からの可視性の高い研究を推進している。クラスター研究推進プロジェクトプログラムは、「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターによる学際的研究を飛躍的に発展させる一環として、慶應義塾大学の核となる研究分野のプロジェクトの形成を支援するものである。地球規模での持続可能性を問うような大きな課題の解決に向けてそれぞれの分野の研究を先導し発展させることで、結果として国内外の大型研究資金の獲得に結びつけて行く。同時に、優れた研究成果を国際共著論文として代表的国際誌に公刊するとともに、研究成果を広く世界に向けて公表し、海外の関係研究者とのリアルタイムでの研究交流・意見交換を進めて、慶應義塾大学の研究の真の姿を広め、そのサイテーションとレピュテーションも向上させることを目的とした学内研究助成制度である。

研究の応募要件としては、各クラスターにおいて、慶應義塾大学の教員研究者が中核となる共同研究により達成できるものであり、慶應義塾大学の強みを生かし、学部、大学院研究科、塾内研究所、および海外の大学、または研究機関等の研究者が参加し連携するかたちの、複数の研究者が役割分担し、真に連携する共同研究が対象である。プロジェクトのターゲットが新規性高く、国際的な意義があることも重視する。また、学内の助成期間終了後までに国内外の外部大型研究資金へ申請することを条件としており、目標とする外部大型研究資金を申請時に明示しなくてはならない。（特に、海外の研究費への申請を重視する）。

さらに、研究最終年度には、学内の成果報告会で研究の国際連携の様子も含め、その成果を報告・公開することが義務化されている。

第1期クラスター研究推進プロジェクトプログラムでは長寿クラスター、安全クラスター、創造クラスターで研究が進められている。

これらの取り組みを、現状以上に強力に推進しながら研究成果を創出し、かつブランド化するために、新たな研究組織を立ち上げ、物理的施設と予算をもって、国際的な研究活動を強力に推進する母体を持つことの重要性が認識された。そこで学長がトップを務め、関連四常任理事で構成されるSG正副本部長会議の統轄下に、「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート：Keio University Global Research Institute (KGRI)」が創設されることとなった。現在規程類が整備されているほか、中長期的な運営を担保するための基金の積み立てが始まっている。

本ブランディング事業では、KGRIの取り組みの中でも、特に研究者招へい事業とデジタル情報発信基盤の強化加速を行う。前者についてはクラスター研究の核となる海外共同研究者の受け入れを進める。これを通じて、クラスター研究分野における人的ネットワーク形成を通じたブランド化を行える。後者については、三田キャンパス東館に設けられるKGRI拠点に世界最先端のデジタル受発信設備を整備し、リアルタイム（遠隔会議形式）の研究交流がいつでも高品質で行える態勢を整えるほか、KGRIとして研究資産のデジタル配信体制（人的手当も含む）を整えることで、研究成果の可視性を高めていく。慶應義塾の研究成果レポジトリの海外データベース（Web of Science、Google Scholarなど）との連動性を高める取り組みも行い、海外研究者にとっての慶應義塾大学研究者の「見える化」を大幅に強化する。

さらに、ネットによる研究成果発信の促進とそれに連動するプログラムの支援と、日本ないし慶應義塾大学固有の知的資産の積極的海外発信をも促進する。

SG事業および、KGRI取り組みは、既に慶應義塾大学の3か年計画および年次事業計画に「塾生の留学促進と留学生受入の活性化を図るために、また、国際的な研究交流を促進・強化するために、ソフト・ハード両面からの改善を行う。」と宣言する形で盛り込まれており、本ブランディング事業申請はまさにその中核部分を実質化することを目的として行うものである。

3. 事業実施体制（1ページ以内）

慶應義塾大学では三田・日吉・信濃町・矢上・湘南藤沢・芝共立の6つのキャンパスと新川崎・鶴岡・川崎殿町の3つのタウンキャンパスで、人文・社会科学、医学、理工学、薬学等の幅広い分野の研究が行われている。医工連携による研究プラットフォームの構築をはじめとして10学部、14研究科を有する総合大学の力を活かした分野横断研究・融合研究や、産学官連携による共同研究など、次代の発展に貢献すべく、従来の枠組みにとらわれない様々な形態の研究活動が行われている。

平成26年10月には文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業タイプA（トップ型）に採択され、世界に冠たる研究大学としての地位の確立のための体制整備を行っている。その構想の中で、クラスター制度による研究成果の世界への還元、クラスター制度を端緒にした新たな人事制度の導入、全学的研究力の強化と国際化を目指しており、その構想を実現するために塾長のリーダーシップの下「スーパーグローバル事業本部」を設け、その中に国際広報活動の検討を担う「広報委員会」、クラスター研究推進・支援の検討を担う「クラスター運営委員会」、学生の国際的教育支援の検討を担う「研究力養成教育運営委員会」、クロスアポイントメント制度やテニユアトラック制度と年俸制度などの検討を担う「人事制度運営委員会」の4つの委員会を置き、「スーパーグローバル事業推進室」が事務局として機能している。

研究支援体制としては、慶應義塾大学における全学的な先進・先端的研究活動を支援する組織として、「研究連携推進本部」と「学術研究支援部」が設置されている。研究連携推進本部には産学連携による総合的、戦略的研究の企画・推進および国内外の企業・大学・研究機関との連携に係る総合窓口の機能を果たす『研究推進部門』、大学で生まれた知的財産権の管理・運用から知的財産権を通じた社会との連携促進までを担う『知的資産部門』、慶應義塾大学の研究活動を総合的な視点から検証し、連携・推進および支援に関する企画および点検・評価を担当する『企画戦略部門』が置かれ、事務組織である学術研究支援部が支える構造となっている。

さらに、学内の企画部門「塾長室」、国際系業務を担う「国際連携推進室」「国際センター」と連携した上で、新たに設置する「慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート：Keio University Global Research Institute (KGRI)」にて私立大学研究ブランディング事業を推進する。

私立大学研究ブランディング事業のテーマとした「地球社会の持続性を高める研究大学としてのブランド確立」のために、クラスターの研究の実体化を図り、「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターを核とする研究教育事業を行う組織として、既存の「グローバルセキュリティ研究所（G-SEC）」を発展的に改組して、学問領域横断的かつ国際的な連携をこれまで以上に発展させられる機会を研究者に提供できる研究フィールドとして「グローバルリサーチインスティテュートKeio University Global Research Institute (KGRI)」を設置する。KGRIでは、1) 3つのクラスターを中心とした、学際融合的かつ国際的研究プロジェクトの実施および成果の発信、2) 学内外の研究機関等との国際的研究連携、3) 教育研究への多様な支援、4) 講座、セミナーなどの教育的事業、その他、次代を見据えた研究基盤整備の一環として、学内外の研究資金による研究プロジェクトを受け入れる新研究組織として、慶應義塾の研究力の戦略的広報に着手し海外での知名度を向上させ、先端的な研究活動をグローバル規模で発信し高い評価を獲得することを目的とする。

事業実施にあたっては、国際的なブランドとしての確立を目指すため、これまでもブランディングに関する評価やコンサルタントを依頼してきたWorld 100などの海外機関に対しても、助言や評価を依頼してグローバルレベルでのブランド構築を目指す。

ガバナンス体制の強化とグローバル化対応支援体制の構築のため、KGRIには、基本方針・研究教育事業計画・人事・予算決算・研究プロジェクトや受託事業の受入等、研究教育事業の選定を審議する「本部会議」を置き、その下に、運營業務・本部会議から付託された事項・研究活動における各種プロジェクトの企画選定・研究成果の点検評価を審議する「運営会議」を置いて、基本構想と慶應義塾大学の事業重点課題（中期計画≒スーパーグローバル事業）について、個別事業ごとの評価査定と、適切な公表を通じての説明責任の遂行を果たし、PDCAサイクルによる運用を着実に実施する。さらに、慶應義塾大学の社会的責任としての研究教育の活動や成果については「慶應義塾点検・評価規程」に基づいて点検・評価される。

また、知的財産権などの確保・活用も目指して、特許等の知的財産権を核としてこれまで慶應義塾大学で特に実績のある「産学連携」による共同研究や受託研究の推進、さらには技術移転による事業化など学外の(株)慶應イノベーションイニシアティブ社等との有機的な連携を推進する。

4. 年次計画（2ページ以内）

平成28年度	
目標	慶應義塾の国際的プレゼンスを高めるブランド構築とそのための研究組織体制の確立
実施計画	<p>1) 全学的なグローバル化構想（広義のスーパーグローバル事業構想）に基づき、グローバルセキュリティ研究所(G-SEC)を「グローバルリサーチインスティテュートKeio University Global Research Institute (KGRI)」へと発展的に改組し、慶應義塾の国際研究連携拠点とし、国際的研究人材の獲得、国際共同研究支援などを実施する体制を整える。 設立時には国際シンポジウムを開催する。</p> <p>2) クラスタ研究推進プロジェクトプログラムによる第1期クラスタ研究（長寿・安全・創造、平成27年度～29年度）の推進と研究成果創出。</p> <p>3) Web刷新に伴う国際的な研究成果公表システムの構築と体制整備</p> <p>4) クロスアポイントメント制度による海外副指導教授など国際研究者ネットワークの構築</p> <p>5) 国際研究連携拠点の整備</p> <p><目標の達成度を測定する方法> KGRI組織整備の証拠（規程、組織図、人員数など）クラスタ、研究の研究成果、ネットワークや拠点の整備状況</p>
平成29年度	
目標	グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）の活動拠点である三田キャンパス東館のラボ、プロジェクトルーム、セミナールームの環境整備
実施計画	<p>1) KGRIによる国際シンポジウムを継続的に開催</p> <p>2) クラスタ研究推進プロジェクトプログラムによる第1期クラスタ研究（長寿・安全・創造、平成27年度～29年度）の推進と研究成果創出。</p> <p>3) Webコンテンツの選定・集約とグローバル公開のためのエディティング支援</p> <p>4) 世界中の研究者とのリアルタイム情報共有と意見交換のための通信情報環境整備（ラボを最新の映像、音声、通信規格に対応したプレゼンテーション機能を備えた施設として整備する。プロジェクトルームとセミナールームに最新の映像、音声、通信規格に対応したプレゼンテーション設備を導入する。国際会議で使用するマイク、同時通訳設備を導入する。）</p> <p>5) 国際研究連携拠点のネットワーク構築</p> <p><目標の達成度を測定する方法> KGRIラボの整備状況、国際シンポジウム開催の実績、クラスタ研究の研究成果、ネットワークや拠点の整備状況、国際論文の数</p>
平成30年度	
目標	5年目を迎えるスーパーグローバル事業と協同して国際シンポジウムを積極的に開催すると共に3つのクラスタの研究成果を国際的に発信する。
実施計画	<p>1) KGRIによる国際シンポジウムを継続的に開催</p> <p>2) クラスタ研究推進プロジェクトプログラムによる第2期クラスタ研究（長寿・安全・創造、平成30年度～32年度）の推進と研究成果創出。</p> <p>3) Webコンテンツの選定・集約とグローバル公開のためのエディティング支援並びに論文発表支援</p> <p>4) 若手研究者並びに大学院生へのインターネット等活用による論文指導</p> <p>5) 世界中の研究者とのリアルタイム情報共有と意見交換のための通信情報交換による国際研究連携拠点のネットワーク構築</p> <p><目標の達成度を測定する方法> 国際論文の数、国際シンポジウムの開催回数、招聘研究者の数</p>

平成31年度

目標

実施計画

平成32年度

目標

実施計画